

パウエルFRB議長の議会証言はタカ派的な内容



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① FRB議長発言で利上げ織り込み加速

パウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長は7日、米連邦議会上院での議会証言で、今後の金融政策運営についてタカ派的な姿勢を示しました。パウエル議長はインフレ圧力が従来の予想を上回っているとの見方を示し、政策金利をこれまでの想定よりも高い水準に引き上げる可能性を示唆したほか、必要であれば利上げペースを加速させる用意があるとも述べました。

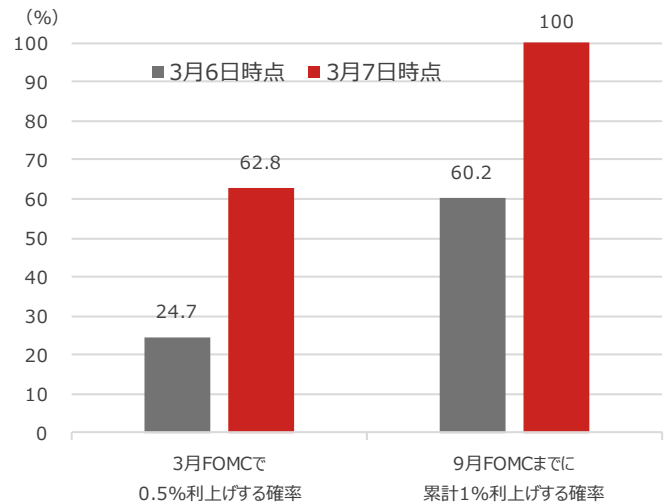
FRB議長の発言を受け、市場では積極的な金融引き締めへの織り込みが加速しました。実際、FF（フェデラル・ファンド）金利先物市場が予想する3月FOMC（米連邦公開市場委員会）で利上げ幅が0.5%となる確率は上昇しました（右上図）。また、9月FOMCまでに累計で1%利上げする確率は100%となり（同図）、同1.25%利上げする確率も19.8%（前日は0%）となるなど、FF金利の上限値が6%に達する可能性も出てきたといえます。

ポイント② 市場のリスク選好姿勢は衰えず

FF金利先物市場では、23年末のFF金利先物が5.5%超となるなど、昨年12月のFOMCで示された同5.125%（中央値）よりもさらに引き締めが進む可能性を織り込む動きとなっていますが、市場のリスク選好姿勢は衰えていないようにみえます（右下図）。7日の米国市場では2年国債利回りが上昇（価格は下落）し、米国株は総じて軟調でしたが、パニック的な動きにはなっていません。

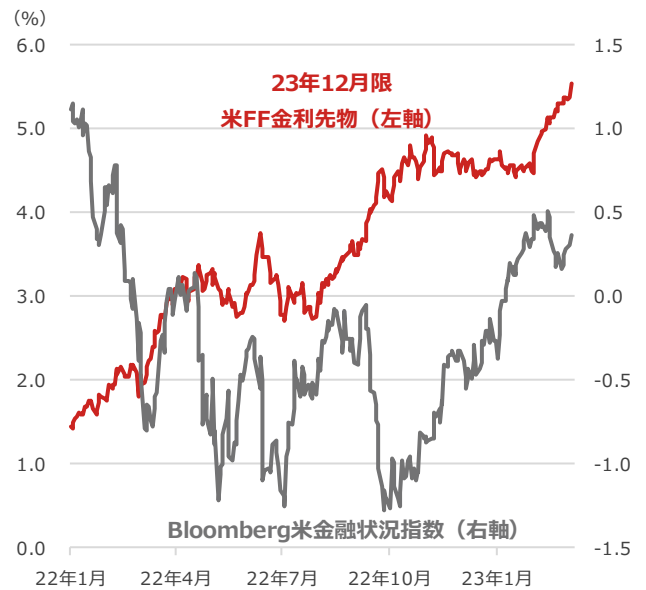
今後はFRBの利上げの累積効果が徐々に物価抑制に効き始めると予想されるほか、現在の米経済は高金利に耐えられる状況にあるとみられ、当面はインフレ指標をにらみながら米国株は一進一退の動きとなりそうです。

パウエル議長議会証言前後の利上げ確率2時点比較



・FF金利先物から予想される確率
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

23年12月限米FF金利先物と米金融状況指数



・Bloomberg米金融状況指数は、米国の金融市場全体のストレスを示したもので、正の値は金融緩和の状況、負の値は金融引き締めを示す
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。